



中高生とともに差別と闘う

『人権を語り合う中学生交流集会』

吉成タダシ



また新しい年が明けました。さ
てさて、今年はどうなるので
しょうか。

昨年の暮れ、夏休みの恒例行事
となつている、「人権を語り合う中
学生交流集会」の報告書が仕上がっ
てきました。真新しい表紙を手に
すると、いきいきと自己を表現する
中学生や若者の顔が浮かび、「また
次の年も頑張ろう」と、ついつい思っ
てしまいます。

県内外の中学生が集い、人権を
テーマにして語り合い交流するの
ですが、それも今回で二十二年目とな
りました。当初は同和対象地区生
徒を対象にしてスタートしました。
法の失効とともに会の存続自体が
大きく揺らぎ、気持ち折れかけ
たこともありましたが、ところが
どっかい続けられて今に至っていま
す。参加募集を、一般の生徒に広げ
てもなお、「この集会を続けてほし
い」という中学生の声が毎年聞か
れるからです。そう言ってくれる中
学生がいる限り、「やっぱりやらな
いと」と、思ってしまう単純な私
です。

会の運営を中心的に取り組んでく
れる中学生に、夏休みまでに四回
ほど集まってもらい、学習や親交を
深めながら、思いを高めていきます。
また、夏休みに開かれる本大会で
は、この集会を卒業した、中学生
と世代の近い若者にパネリストに
なってもらい、人権について語って
もらいます。中学生にとっての「数

年後の姿」として自分を重ね合わ
せ、パネリストに将来のモデルに
なってもらおうわけです。

マミとマキ

昨年の夏、パネリストとしてス
テージにあがってくれたのは、
二十一歳になる幼なじみのマミとマ
キでした。ずっと同じクラスだった
二人は、中一の人権学習で、そのつ
ながりを確かなものにしていきま
した。

ある部落問題学習のときのこと
です。周りのクラスメイトの発言に
対してマミが、「みんなの言ってる
ことがヒトゴトに聞こえる。みんな
に私の気持ちは分からない」と、泣
いて訴えたことがあったのです。そ
のときの出来事が根底にある地区
外出身のマキは、当手を振り返り、
中学生にこう話しはじめました。

「おはようございます。私は今、
看護師になるための勉強をしてい
ます。

私が人権問題を考え出したのは、
先生が言ったように中学校一年生の
ときでした。正直それまで人権のこ
とを考えたことはあまりなかった
し、初めてのことでいろいろ衝撃を
受けたのを覚えています。

やっぱり私にとっては、そこにい
るんですけど、マミの存在が一番大
きくて、部落の話をするときにマミ
が、「私は部落で、私の部落の気持
ちは、部落じゃない人には絶対分か
らない」って泣きながら言ったこと

が衝撃的だったのを覚えています。

私が中学生になって仲良くなった
のが、マミだったんです。だから正
直そんなところでマミが悩んでたど
も思わなかったし、自分が考えもし
ないことで泣いてるっていうのが、
私にとってはとてもつらかったで
す。それで、どうしたらもっとマミ
に近づけるんだらうって、人権の授
業で思いました。私にとって一番に
思ったことは、マミのために何かを
したいっていうことが根本でした。

部落っていう大きな問題にマミが
たった一人頑張っていくのは違っ
たって思ったのが、中学校一年生の
私の一番大きな出来事でした。それ
があったから私は、マミと対等な立
場になりたいと思つたし、頑張っ
て発言とかもしてたなって思います。」

当時の情景がよみがえってきま
した。タテマエで向き合うのではな
く、ただ純粹に、真剣に友を思う
気持ち、マキを突き動かしていま
した。それは、マキ自身のもとも
の性格だったのかもしれない。で
も、その純粹さが一時のものでなく
継続していけば、人を思う気持ち
はホンモノになっていくのだとい
うことを目の当たりにすることができ
ました。

悩み続けることが、私の答え

「うまく言えないんですけど、た
ぶんみんな、友達とかが悩んでた
り、自分の大事な人が悩んでた
りしたら、自分もつらくなったり、苦

しくなったりしません？ 私はそ
れが一番つらかった。そのときは一
番。それをどうにかしようと思っ
たら、自分から行動していくと思
うし、人権学習はほかの教科みた
いにはつきりとした正解がないか
ら、もしかしたらマミが言ってるこ
とだけが正しいことじゃないと今に
なって思う。いろんな見方がある
から、悩み続けるのが答えなのか
なって、今は思っています。」

今、マキは看護師になろうとし
ていますから、直接人権に関わった
活動をしているというわけではあり
ません。ですが、今も思い、考え、
悩み続けているということが、彼女
なりの人権活動ではないかと思
います。

周囲などから客観的な知見を挟
み込むことなく、自分の中だけで
思考を全うし、「人権とはなんたる
か」を自己完結させているような
人に出会うことがあります。彼
女はそうではありません。今も悩
み続け、そしてマミとつながり続け
ているのです。そこが、彼女のす
いところだと思つたのです。

このあとマキは、これまで、そし
て今も自分を取り巻いている葛藤
について切々と語っていきます。そ
んな自分をつくりあげたのは、親
友であるマミの存在であり、中学時
代の仲間づくりであり、クラスでと
ことん語り合った人権学習でなかっ
たかと思つた。

(次回「人権学習から学んだこと」)